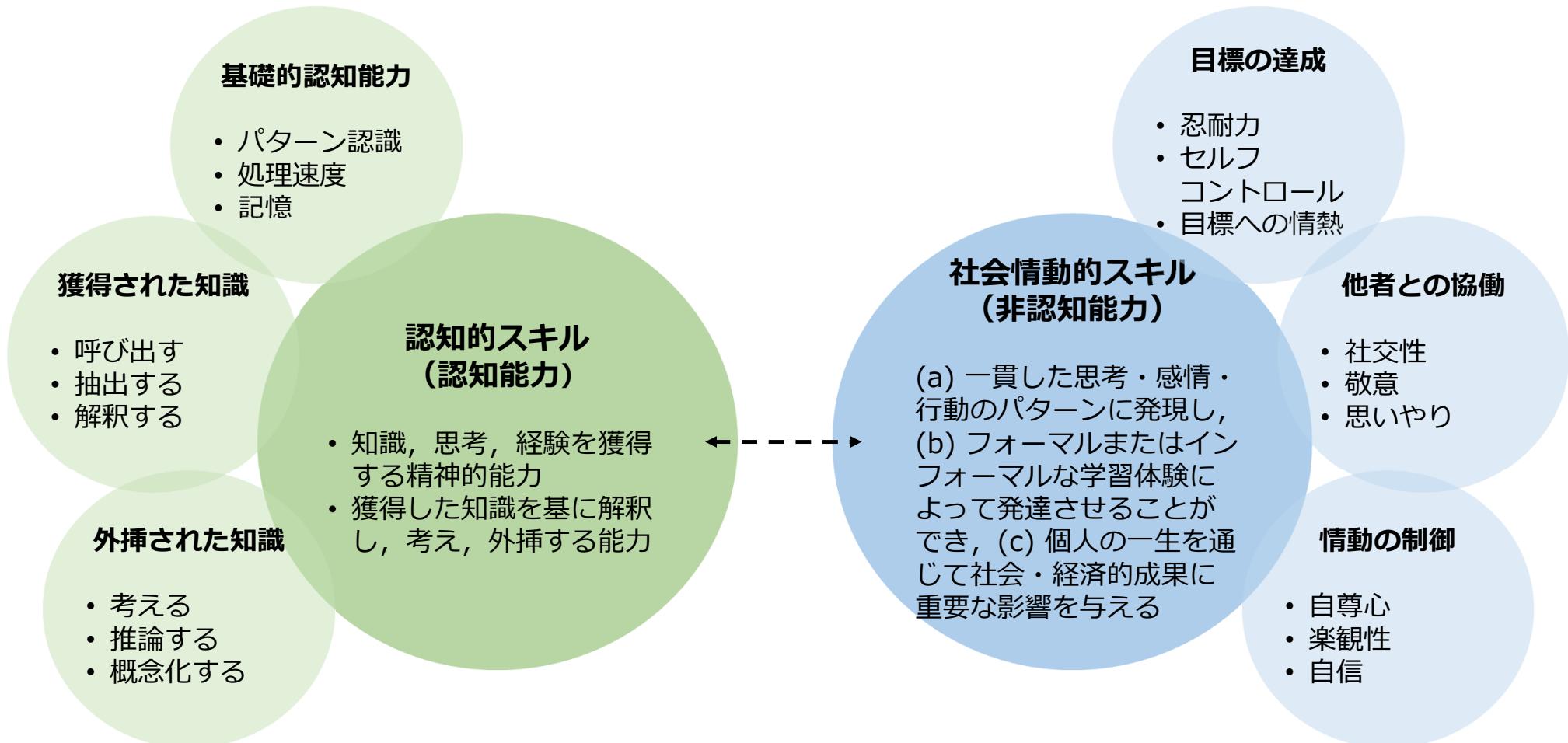


令和7年度 YNU研究拠点
中間報告会

社会情動的スキル研究拠点

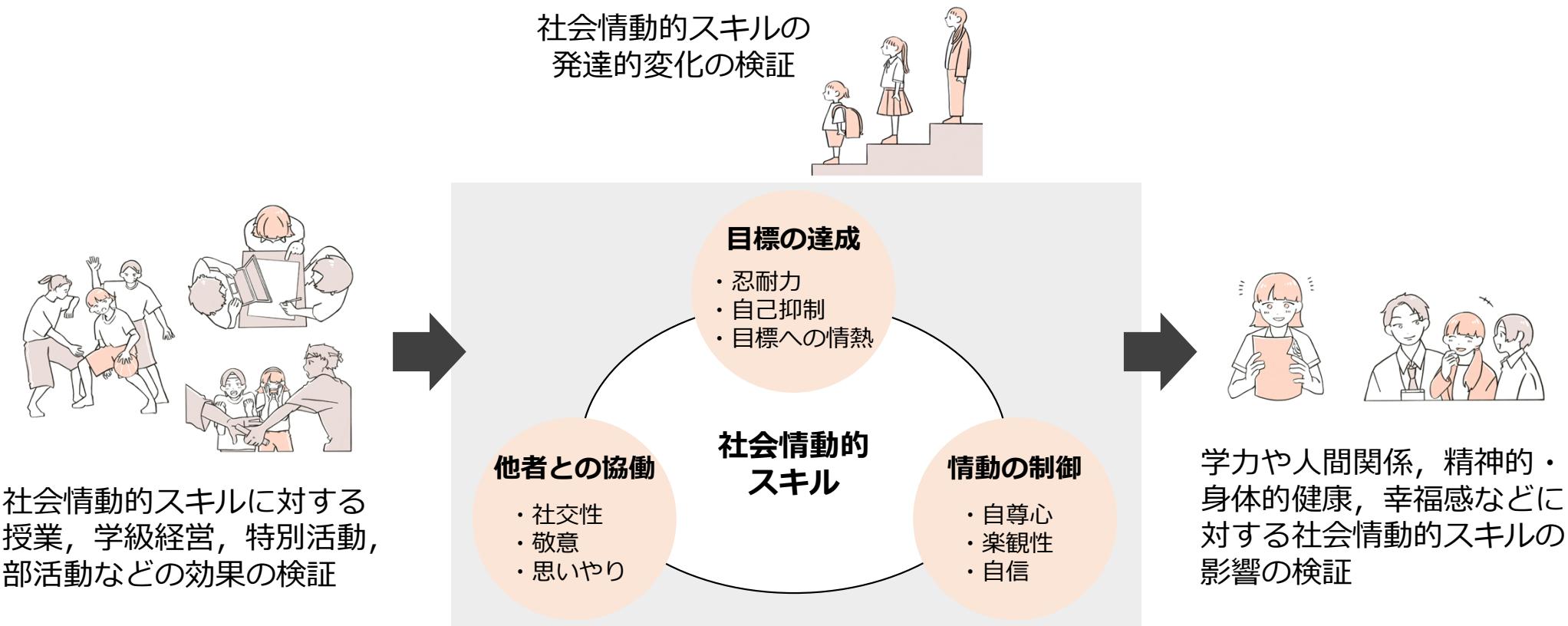
教育学部
鈴木 雅之

OECDによる社会情動的スキルの定義



社会情動的スキル研究拠点

社会情動的スキルの発達的变化、学校教育における育成方法、将来の学力やウェルビーイング等への効果について検証し、子どもの社会情動的発達を促すための方策について知見を得ることを目指す



進行中の研究と研究成果、今後の展望

【学力と社会情動的スキルの関連】

- 横浜市教育委員会との研究
 - メタ認知や知的好奇心の高い児童生徒ほど学力の成長が大きい

【学級経営の効果】

- 小学生を対象とする調査
 - 学級目標の達成に向けて自律的に行行動している児童ほど学習意欲やグリットが高い

【教師やクラスメイトの支援の効果】

- 小学生を対象とする調査
 - 自律性を促す支援が学力や動機づけ、ウェルビーイングを高める

【特別活動の効果】

- 小学生を対象とする縦断調査
 - 役割意識を持って運動会の準備・練習に取り組むことで、ソーシャルスキルやグリットが高まる

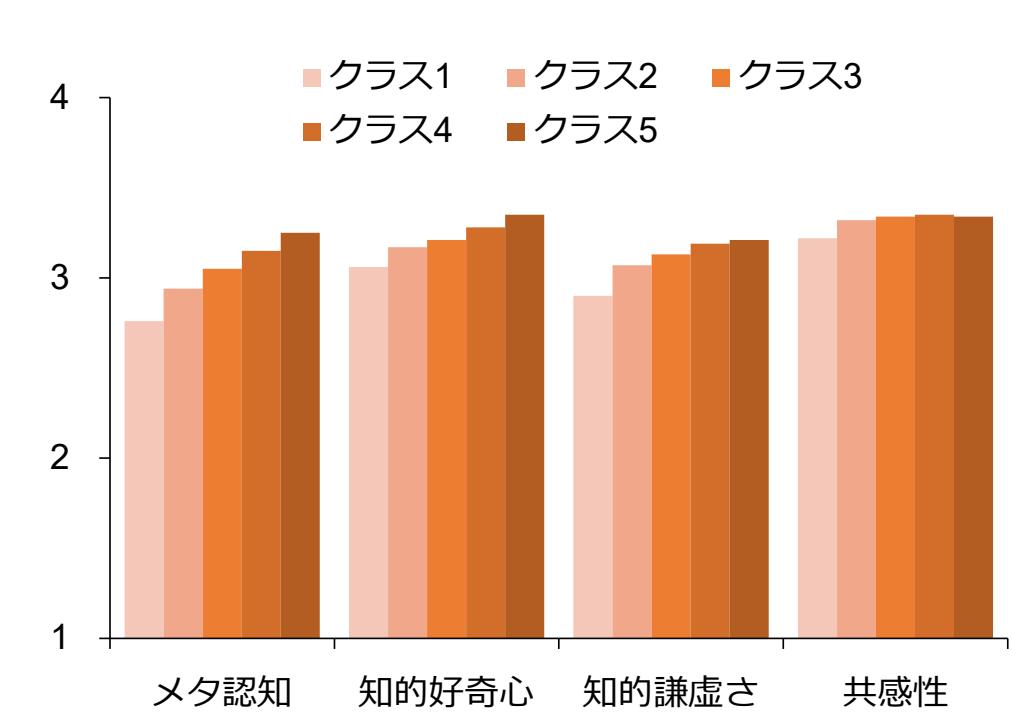
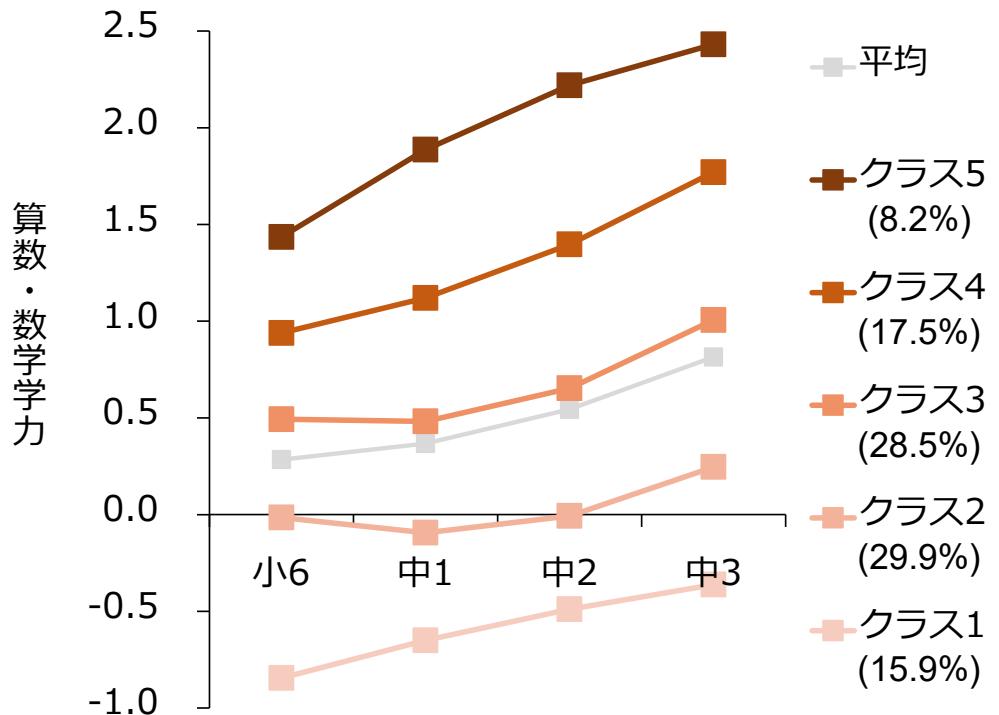
【部活動の効果】

- 中学生を対象とする縦断調査
 - 部活動に自律的に取り組むことで、学習にも自律的に取り組むようになる
- 国立教育政策研究所との研究
 - 中学校での部活動経験が高校以降の社会情動的スキルへの影響を検討

学級経営、授業、特別活動、部活動などの個別の効果にとどまらず、統合的な効果の検証、包括的な支援方法の提案を目指す

学力と社会情動的スキルの関係

社会情動的スキルの高い児童生徒ほど、その後の学力の成長が顕著



注) 横浜市学力・学習状況調査（2022～2025年）のデータを用いて、2022年度に小6だった児童を対象に分析。潜在クラス成長分析によって5つのクラス（グループ）に分類し、小6時の社会情動的スキルを比較。